

李王妃殿下の御臺臨を忝うして

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園主事

倉 橋 惣 三

李王垠殿下妃方子女王殿下には、豫てわが附屬幼稚園に於ける幼児保育の實際を御覽下さるべき思召を仰せ出されてあつたが、愈々本日、六月十六日、臺臨を忝うしたことは本園に限り光榮の至りである。

妃殿下には玖殿下(昭和六年十二月御誕生)の御母君として、限りなき御慈愛と共に、常にその御教養に御心を注がせられ、御參考なるべき書籍類なごも廣く御涉獵遊ばされてゐる趣きを承つてゐる。昨年以來二回に互り紀尾井町の御殿に私を召され、幼児期教育のことに關し、李王殿下御同列で御聽講給はつた折の如きも、種々御下問の間に深き御研究の一端をうかゞひ奉ることが出來て、まことに欽仰にたえなかつた。その妃殿下を親しく幼稚園にお迎へ申し上ぐるには、唯光榮を光榮とするだけでは濟まない。私達職員一同は、何を如何して御覽に入るべきかに就て、無き智恵をしぼつた。しかも、幼児の眞の生活はありのまゝ以外にない。幼稚園にしても、平生のまゝを御目にかけるこそ、有り難き臺臨の思召に副ふ途であるを考へた。

御休憩室の如きでさへ、せめてそれだけは本校の貴賓室にお通り願ひたいと思つたのを、それに及ばないといふ前以ての思召に従ひ、主事室を清掃して、お椅子を改めたゞけで御免し願つた程である。況んや保育室は全く常のまゝにした。ただ保育實習科の若き生徒達が、せめてものお迎へ心を以て、數日前から、日頃の掃除手腕を一倍こ發揮したゞけであつた。

午前十時校門より直に幼稚園に御著。玄關には十餘人の幼児達がにこ〜こお迎へした。校長の御先導で、御休憩室に入らせられ、及川、新庄、菊池、小島、村上、小島各保母銘々に調を給ふた後、私は直ぐ保育室に御案内申し上げた。

生憎の雨である。庭へ出るここの出来ない幼児達は皆保育室にゐるが、各室も幾つかの自由な「グループ」に分れて、いろいろな仕事や遊びをしてゐた。

森の組(幼) 動物の切りぬき

川の組(幼) 粘土(著色) ま〜こい

山の組(長) 遊戯

動物園(大工仕事)
の支度(動物色塗り)

海の組(長) 製作 市街(大塚附近)

林の組(幼) 砂箱 塗繪

池の組(長) 粘土 水族館の支度

妃殿下には絶えず御微笑をもつて幼児達の間を御巡覽になり、屢々お立止りになつては幼児の肩越しに優しくお話けになつたりした。幼児達が平氣で無遠慮なお答へするのが却つて御興味を添へたか、お附の方々を顧みられてお笑ひ遊ばされるやうのことも度々あつた。私は一々の實際に即して、保育の趣旨方針を御説明申上げた。それに對しても、要所要所にお言葉を給はり、各室毎に、細々お御覽下さつた。つゞいて遊戯室で、唱歌遊戯を御覽になり、この間約一時間半、

御歸還の時刻が御豫定よりも遅れた位であつた。之れ一つに幼児の世界のもつ純眞の力が御感興をおひきつけ申上げた爲に拜察するが、こゝまで詳細に御覽いたゞいたこゝは、一同の深く感謝にたえぬこゝろである。

たゞ一つの遺憾は、雨のために、遊園に於ける元氣縦横の自由遊びを御覽に入れるこゝの出来なかつたこゝろである。しかし、遊戯室のテレスに暫くお立ちになり、山や砂場や、運動設備なごをよく御覽下さつたので、晴天ならば、如何に幼児達が潑刺さして強い日光の下に活躍するか、又それが幼稚園として最も大切な部分であるかといふこゝを十分力を籠めてお話し上げるこゝは出来た。但しあのくるくろお可愛らしくお肉つきになつてゐる若宮を御一緒に、日々に廣い芝のお庭にお出ましになるに承つてゐる妃殿下の御理解に對しては、室外保育のさみだれ、講釋なご、今更申上げる必要もないこゝろであつたのである。

十一時四十五分、休憩室で御少憩の後、御機嫌麗しくお立ちになつた。その時、廊下にも、玄關にも、全園の幼児達が列んでゐて、「さよなら〜」とお送り申げた。妃殿下には、その賑やかな大勢の子ごもの聲を後に、若宮様のさぞやお待ち兼ねになつてゐる御殿へ、一路御歸還になつたのであつた。

(昭和九年六月十六日夜謹記)